

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2007年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文学研究科	組織神学専攻
指導教員	所属・職名	氏名	
	文学研究科教授	月本昭男 印	
自然・人文の別	自然 ・ <u>人文</u>	個人・共同の別	<u>個人</u> ・ 共同 名
研究課題名	ヨシヤの改革：列王記下 22-23 章を中心として		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	文学研究科組織神学専攻後期課程 2 年	高橋優子 印	
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2007 年度		
研究経費	200 千円		

研究の概要 (200～300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

紀元前 7 世紀に、南ユダ王国のヨシヤ王を中心に行われた「改革」は、わが国ではもっぱら北イスラエル王国崩壊に起因する外的圧力に対する反応として理解されてきたが、これとあわせて内的要因を考慮する必要がある。文献学的分析に加えて歴史的・考古学的知見を援用することで、この改革の意義がより明確になる。ヨシヤの改革は、既に国内で進んでいた変容と国外情勢が相互規定的に作用して生じた歴史的出来事であったと考えられる。

キーワード (研究内容をよく表しているものを 3 項目以内で記入。)

[ヨシヤの改革] [申命記史書] [ヘブライ語聖書]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

日本での「ヨシヤの改革」に関する先行研究は、とくに国外の状況(北イスラエル崩壊)によって南ユダ王国に要請された政治統合に関心を集中してきた。もちろんこのファクターは重要なものである。しかしこれは「ローマ帝国崩壊はゲルマン民族の大移動によってひきおこされた」というテーゼ同様、真ではあるが最終的要因にのみ注目したものとわざるを得ない。私見によれば、ローマ帝国崩壊がゲルマン民族の大移動に先立って変容していたローマ帝国の内部事情によって準備されていたように、ヨシヤの改革においても国家統合の必要性以前の「変容」に目を向けなければならない。

以上のような問題意識から、申請者はライナー・アルベルツの研究を手掛かりとして、国内的(経済的・社会的・宗教的・政治的・法的)諸要因を考慮する作業を行ってきた。現在最終的な結論を出すには至っていないが、展望は明確になりつつある。第一にヨシヤの改革は、原理主義的な復古運動のような外皮とは反対に、神学的体系の整備を伴う世俗化の過程で会ったと考えられる。第二にその神学的体系の整備は、形而下学的な変化に対応するため形而上学に要請されたものであった。まったく人工的な形而上学的改変は、実際に受容される可能性が極めて低い。したがって申命記改革者とよばれる「神学者たち」は、諸々の改革を支持するために「既存の」宗教的伝統の recapitulation を行ったのである。それにより連続性を確保され、一定の普遍性を与えられたイスラエル宗教は、南ユダ王国が崩壊した後も命脈を保ち続けることができたと言うことができる。

ヨシヤの改革あるいは申命記改革(とその後の展開)の意義は、従来のキリスト教神学において概して否定的に評価されてきた。つまり、それが単純な神義論に代表されるような硬化した神学であり、ユダヤ教には直接継承されたがキリスト教ではある程度まで克服された負の遺産であるかのように考えられてきたのである。しかしこの評価は著しく偏向したものである。ヨシヤの改革は従来考えられてきたより、重要な意義を有する出来事であったといえる。

研究成果の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

2008年度中に博士論文中間報告として提出し、*Journal for the Study of the Old Testament* に投稿する予定である。また2008年10月あるいは2009年5月の日本旧約聖書学会で発表する予定である。